地区別懇談会（岸本地域懇談会）意見交換記録

と　き　平成２８年１１月２２日（火）１９：００～２０：２７
ところ　岸本公民館　／　参加者１２人

番号	参加者からの意見等要旨	町の対応等要旨
1	認知症グループホームの入所が長期になると費用の支払いが非常に負担になる。入所費助成などについて町の考えは。 制度改正によって、特養の入所要件が要介護１以上から要介護３以上になるが、国の目標とは反対に、介護離職者が増えるのではないか。 地域包括支援制度について、現状と町の方針は。	国の制度（高額医療・高額介護合算制度等）がある中で、町が独自に利用料軽減にまで踏み込めるかは、疑問がある。 ご意見のような事例が数多くあることは共通認識になってきているが、制度改正を待つしかないと考えている。 制度改正による経過措置があり、既に入所している方の退所を求めるということではない。 地域包括ケアの考え方は、持続可能な社会保障制度を構築するために進めているもの。制度が出来上がってみないとわからないが、医療まで含めないと目指している支援制度にはならないと考えている。制度が確立するにはまだしばらく時間が必要だとみている。 制度改正を見ながら、役場でできることは対応する。
2	地区内で下水道に接続されない住宅の生活排水の臭気が気になる。町で下水道接続を促せないか。	下水道接続のための低利の貸付制度を設け、周知もしている。継続的に接続の呼びかけも行っているが、それぞれの事情で接続されない人もある。 再度周知を行う。
3	国道 181 号の旧おかじまや前交差点付近の渋滞対策として、右折レーンの設置を県に要望してほしい。 殿河内から岸本中学校方向に橋を架けることはできないか。	国道 181 号のバイパス１年半から２年で開通の見込みとなった、開通により交通量は半分になると予想されている。右折レーンについては県に継続協議中。 橋の設置についてが、町から県には要望しているが、現時点では事業化の計画はない。

4	桝水地区の観光振興のためにも大山正面登山道の復活ができないか。	桝水高原周辺は、環境省、県、民間企業によって観光施設の整備が進められてきている。 大山正面登山道の活用については、安全性が確保されていないことから、行政として再開に向かうことはできない。
5	大殿地区のショッピングセンターとディスカウントショップの間にフェンスが設置されているため、利用者が一旦国道に出なければ、店舗に入ることができない。このことによって交通渋滞が発生している。町からフェンスの撤去を促してもらうことができないか。	民間事業者が企業活動の中で実施されているものであり、町が意見を言えるものではない。
6	津波発生時の避難所の設定はあるか。また、要援護者の避難に対応するために、各区公民館等への担架等避難用具を設置する考えはないか。	伯耆町内は津波浸水想定区域に入っていないため、津波に対する避難所は設定していない。 避難器具の購入、設置については、補助制度（45%補助）を設けているので、希望があれば相談していただきたい。
7	盆のお供えの収集をする考えはないか。	お供えだけを収集することはできない。対応する区分の収集日に出していただきたい。
8	町が行うスポーツ施設の概要について教えてほしい。	町民の健康増進を図っていくため、ゆうあいパル内にマシントレーニング、ヨガ、ダンスなどの運動ができるスポーツジムを H29 年 4 月オープンする予定。
9	町内の公共交通は便数が少なく、利便性が悪い。デマンドバスも自分の都合とマッチングしないことがある。解決する知恵はないか。	地方では、鉄道、バスなどの公共交通の便が少なく、車がないと不便に感じるが、解決の方策が見えない難しい問題。 町では、ＪＲやバスのダイヤ改正にあわせて乗り継ぎ時間などの点で工夫をしている。今後も工夫していく。 地方では、公共交通に合わせて行動することも必要となることもご理解いただきたい。